

## 冠動脈造影

FFR LAD distal 0.59, mid 0.67, LCX 0.84



冠動脈造影を行った結果、LCxは異常所見はなかったものの灌流領域は非常に小さく、LADにおいてLCxに相当する様な対角枝が存在し、その手前に75%狭窄があった(➡)。FFRの測定値は、LADにおいてdistal 0.59、mid 0.67となり明らかに有意な低下を認めた。RCAには病変部位は認められず、本症例はLADの1枝病変と判断された。

## まとめ

本症例の負荷時のSPECT結果は、一見すると正常に見え虚血は認められないが、患者背景(息切れ、石灰化、高血圧)からバイアスをかけて画像を見直すと、通常の画像とは異なる点に気付く。TIDの所見やDSEの結果も考慮すると、本症例にはLAD領域に虚血が存在する可能性が疑われた。実際にFFRを実施した結果、LADに有意な低下が認められた。疾患の見落としを防ぐためには、画像所見に加えて患者情報や他の検査結果を含めて総合的に判断し、必要に応じて更に検査を加えて精査する事が必要である。

お問い合わせ先  
日本メジフィジックス株式会社 製品企画部(循環器領域)  
東京 / 03-5634-7452

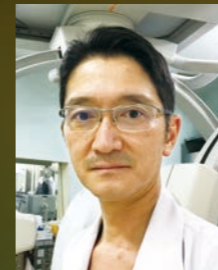


日本メジフィジックス株式会社

〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号  
TEL 03-5634-7006(代) URL <http://www.nmp.co.jp/>

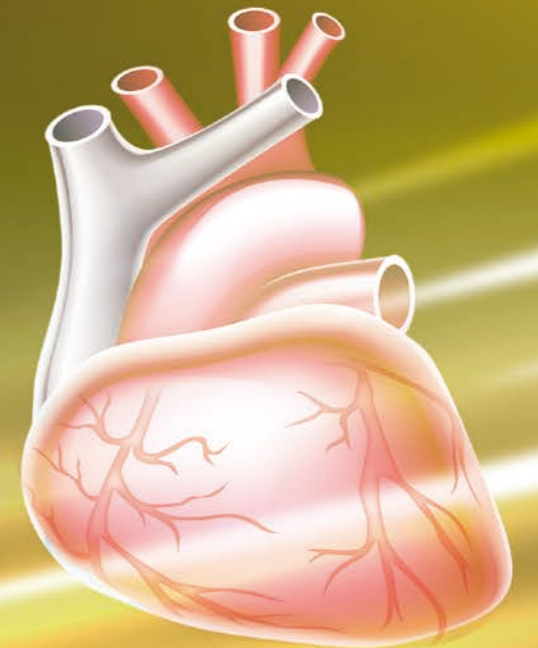
2017.3月作成  
(TA-1703-G16)

# 診断に迷う症例における 心筋血流シンチグラフィの読影： 読みすぎ？ バイアスをかけて評価する



筑波メディカルセンター病院  
循環器内科  
診療科長  
仁科 秀崇先生

# 2



紹介した症例は、2016年7月に東京で開催されたセミナー「読影道場」で使用されたものです。

